

2017年（平成29年） 4月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/30～4/5のNYMEX・WTIは、3週間振りに50ドル台を回復し、50.24～51.15ドルの範囲で推移した。

4月6日は、前日の米国エネルギー情報局(EIA)週報で、原油在庫は増加したものの、精製設備稼働率が増加し、5月のドライブシーズン到来に伴うガソリン需要増加、また、次回OPEC総会における協調減産延長への期待感から、3日続伸した。5月限の終値は前日比0.55ドル高の51.70ドルだった。

週末7日は、米軍によるシリアへのミサイル攻撃を契機とする地政学リスクの高まりを受け、4日続伸した。ただ、午後には、紛争拡大懸念の後退とドル相場の持ち直し、ペカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が672基(前週比10基増)と12週連続増加の発表等が、上昇を抑えた。5月限の終値は前日比0.54ドル高の52.24ドルだった。

週明け4月10日は、シリア情勢の緊張、北朝鮮近海への米空母派遣、エジプトでの「イスラム国」(IS)による教会の連続爆破等、世界的な地政学リスクの高まり、再開されたばかりのリビア最大のシャララ油田の操業再停止やベネズエラにおける大規模な反政府デモ報道があり、5営業日続伸した。5月限の終値は前日比0.84ドル高の53.08ドルだった。

11日は、数日來の地政学リスクの高まりに加え、サウジアラビアがOPEC事務局に協調減産延長の希望を伝えたとも報道があり、6営業日続伸、1カ月振りの高値を付けた。ただ、この日夕刻と明日予定の米国官民の原油在庫週報の増加予想、高値推移による利益確定売り等が、上値を抑えた。5月限の終値は前日比0.32ドル高の53.40ドルとなった。

12日は、米国エネルギー情報局(EIA)発表の米国原油在

庫が減少したものの、原油生産等の増加で、改めて米国内の供給過剰感が認識され、7営業日振りに反落した。5月限の終値は0.29ドル高の53.11ドルだった。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週50.70～52.60ドルと、50ドルを回復し堅調に推移した。4月6日は52.40ドル、7日は53.80ドル、10日は53.80ドル、11日は54.30ドル、12日は54.90ドルで推移した。

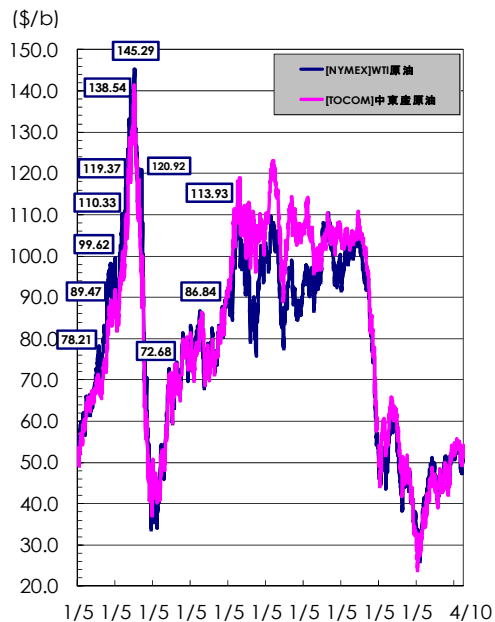
為替は、前週110.60～112.19円の範囲で推移した。4月6日は110.56円、7日は110.93円、10日は111.43円、11日は110.83円、12日は119.58円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格は、40,399円/klとなり、前旬を492円上回った。ドル建てでは56.64ドルで前旬比0.73ドル高。為替レートは1ドル/113.40円。

主要元売会社の4月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.0円の値上げに分れた。原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれをわずかに相殺したが、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、4月10日時点の小売価格は、ガソリンが横ばいの133.9円、軽油は0.1円値下がりの112.2円、灯油は0.2円値下がりの77.7円だった。ガソリンは2週連続の横ばい、軽油も7週振りの値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。この週(4月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は1.0円の値上がりから1.0円の値下がりに分かれた。

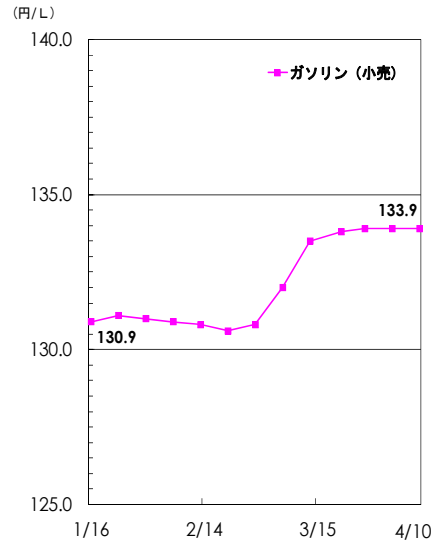
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/2 ~ 4/8	3,487 ▼ -21	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.0 ▲ 4.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/8	12,475 ▼ -44	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/10	54.10 ▲ 1.87	▲ 16.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/10	53.08 ▲ 2.84	▲ 12.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	56.64 ▲ 0.73	▲ 24.47
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	40,399 ▲ 492	▲ 17,507
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.40 ▲ 0.07	▼ -0.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/10	112.43 ▼ -0.16	▼ -3.32



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/2 ~ 4/8	1,027 ▼ -72 ▲	-	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	931 ▼ -63 ▲	-	
	輸出	"	26 ▼ -107 ▼	-	
	在庫	4/8	1,762 ▲ 69 ▲	-	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/4 ~ 4/10	52.8 ▼ -0.4 ▲	13.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/4 ~ 4/10	51.3 ▲ 0.7 ▲	11.7
		(TOCOM/中部)	4/10	51.9 ▲ 0.4 ▲	12.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/10	133.9 ➡ 0.0 ▲	17.6	

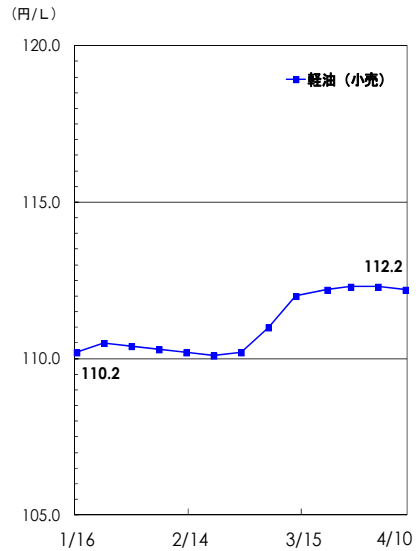
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

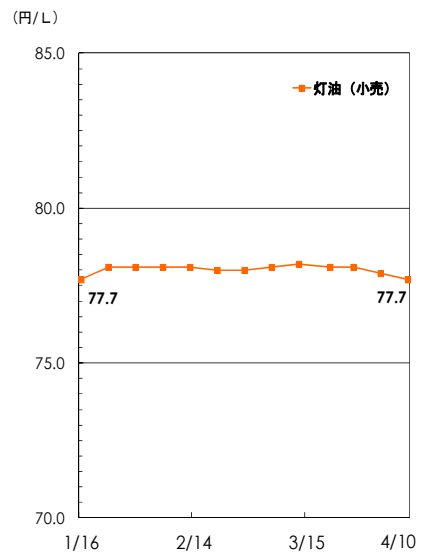
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/2 ~ 4/8	698 ▼ -114 ▼	-	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	645 ▲ 16 ▲	-	
	輸出	"	48 ▼ -178 ▼	-	
	在庫	4/8	1,444 ▲ 6 ▲	-	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/4 ~ 4/10	50.9 ➡ 0.0 ▲	13.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/4 ~ 4/10	48.0 ▲ 2.0 ▲	14.5
		(TOCOM/中部)	4/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/10	112.2 ▼ -0.1 ▲	13.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/2 ~ 4/8	286 ▼ -54 ▲	-	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	356 ▼ -56 ▲	-	
	輸出	"	0 ➡ 0 ➡	-	
	在庫	4/8	983 ▼ -70 ▼	-	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/4 ~ 4/10	49.5 ▼ -0.9 ▲	13.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/4 ~ 4/10	46.3 ▲ 0.6 ▲	12.8
		(TOCOM/中部)	4/10	47.2 ▲ 0.4 ▲	12.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/10	77.7 ▼ -0.2 ▲	15.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月12日のNYMEX市場WTI原油は、地政学リスクの高まりを背景に、3月の石油輸出国機構(OPEC)の産油量が減産合意(3,250万BD)を下回ったとの報道があったこと、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が事前予想(10万バレル増)に反し220万バレル減少、ガソリン・中間留分も予想を上回る減少を示したことから、一時は53.76ドルと1カ月振りの水準まで上昇したが、同週報で、米国内原油生産増加、クッシングの原油在庫増加など、改めて米国の供給過剰感が認識され、7営業日振りに反落した。

5月限の終値は前日比0.29ドル安の53.11ドル、6月限の

終値は前日比0.27ドル安の53.52ドルだった。

EIAによると、4月10日時点のガソリンの小売価格は前週比6.4セント値上がりの1ガロン2.424ドル(71.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.6セント値上がりの2.582ドル(76.6円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月2日～4月8日に休止したトッパー能力は33.4万バレル/日で、前週に対して3.0万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は348.7万klと、前週に比べ2.1万kl減少。前年に対しては24.9万klの減少。トッパー稼働率は89.0%と前週に対して4.1ポイントの増加、前年に対しては1.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.6%減、ジェット/10.2%減、灯油/16.0%減、軽油/14.1%減、A重油/2.4%増、C重油/14.7%減。今週のC重油の輸入は3.6万kl(前週比1.9万kl増)。軽油の輸出は4.8万kl(前週比17.8万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比では軽油のみが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は93.1万kl(対前週6.3%減)と4週振りに前週比で減少、2週振りに前年比で増加となり、10週連続で100万klを下回った。

ジェット7.1万kl(対前週33.1%減)、灯油35.6万kl(対前週13.6%減)、軽油64.5万kl(対前週2.5%増)、

A重油23.1万kl(対前週4.7%減)、C重油21.1万kl(対前週13.6%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/2 ~ 4/8)	前週 (3/26 ~ 4/1)	前週比
ガソリン	931	994	▼ -63 (-6%)
ジェット燃料	71	107	▼ -36 (-34%)
灯油	356	412	▼ -56 (-14%)
軽油	645	629	▲ 16 (3%)
A重油	231	243	▼ -12 (-5%)
C重油	211	244	▼ -33 (-14%)
合計	2,445	2,629	▼ -184 (-7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月8日時点の在庫は、灯油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは176.2万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

灯油は98.3万kl、前週差7.0万kl減。前年に対しては19.1万kl少ない。

軽油は144.4万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては4.2万kl多い。

A重油は78.3万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては2.2万kl多い。

C重油は195.0万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては0.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/8)	前週 (4/1)	前週比
ガソリン	1,762	1,693	▲ 69 (4%)
ジェット燃料	926	900	▲ 26 (3%)
灯油	983	1,053	▼ -70 (-7%)
軽油	1,444	1,438	▲ 6 (0%)
A重油	783	771	▲ 12 (2%)
C重油	1,950	1,932	▲ 18 (1%)
合計	7,848	7,787	▲ 61 (0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月4日から10日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高だったが、原油コストは値上がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン106円台、軽油50円台、灯油49円台で、軽油を除きやや値下がりした。海上スポット価格は、ガソリン103～104円台、軽油48～49円台、灯油45～46円台で、灯油を除き値下がりした。先物価格は、ガソリン104～105円台、軽油48円台、灯油44～46円台で、こちらは値上がりである。元売の卸価格は0.4円値下げから1円値上げに分かれた。

JXTGエネルギーは4月13日、4月15日以降の外販スポット価格を、全油種1.0円値上げする旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がり、製品スポット市況も原油価格の値上がりを受け、先物は値上がりしたが、海上スポットは、先物を中心に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、10週続けて100万klを下まわった。

4月第3週(4月13日～4月19日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月4日～4月10日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値下がり、軽油は横ばい、灯油は0.9円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円、軽油は1.5円の値下がり、灯油は横ばいだった。先物価格は、ガソリンが0.7円、軽油が2.0円、灯油が0.6円の値上がりだった。原油価格は値上がり、為替は円高でこれを一部相殺したが、原油コストは値上がりとなった。

4月第3週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (4/4 ~ 4/10)	前週 (3/28 ~ 4/3)	前週比
スポット価格	レギュラー	52.8	53.2	▼ -0.4
	灯油	49.5	50.4	▼ -0.9
	軽油	50.9	50.9	➡ 0.0

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (4/4 ~ 4/10)	前週 (3/28 ~ 4/3)	前週比
先物価格	レギュラー	51.3	50.6	▲ 0.7
	灯油	46.3	45.7	▲ 0.6
	軽油	48.0	46.0	▲ 2.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/4～4/10実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.4	▲ 0.7	▲ 0.2
灯油	▼ -0.9	▲ 0.6	▼ -0.2
軽油	➡ 0.0	▲ 2.0	▲ 1.0
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの133.9円、軽油は前週比0.1円値下がりの112.2円、灯油は前週比0.2円値下がりの77.7円だった。ガソリンは2週連続の横ばい、軽油は7週振りの値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは14都県、横ばいは5県、値下がり28道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県128.4円(前週比0.2円安)、次が千葉県130.7円(同0.1円安)だった。最高値は鹿児島県の141.4円(同0.1円安)だった。都道府県別で、最も

値上がりしたのは前週比0.8円高の東京都(135.7円)、最も値下がりした県は同0.5円安の北海道(133.4円)と宮城県(133.5円)、横ばいが滋賀県・新潟県等、5県だった。

原油コストは値上がりし、元売りの卸価格は値上げと値下げに分かれたが、小売価格への転嫁が遅れたところもあり、2週連続でガソリン小売価格は横ばいだった。原油価格は値上がり、為替レートは円高となり、原油コストは値上がりし、今週の元売会社の卸価格は、据え置きと1.0円の値上げに分れた。次週(4月17日)のガソリンと灯油の小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (4/10)	前週 (4/3)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	133.9	133.9	➡ 0.0	08/8/4 185.1
	灯油	77.7	77.9	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	112.2	112.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

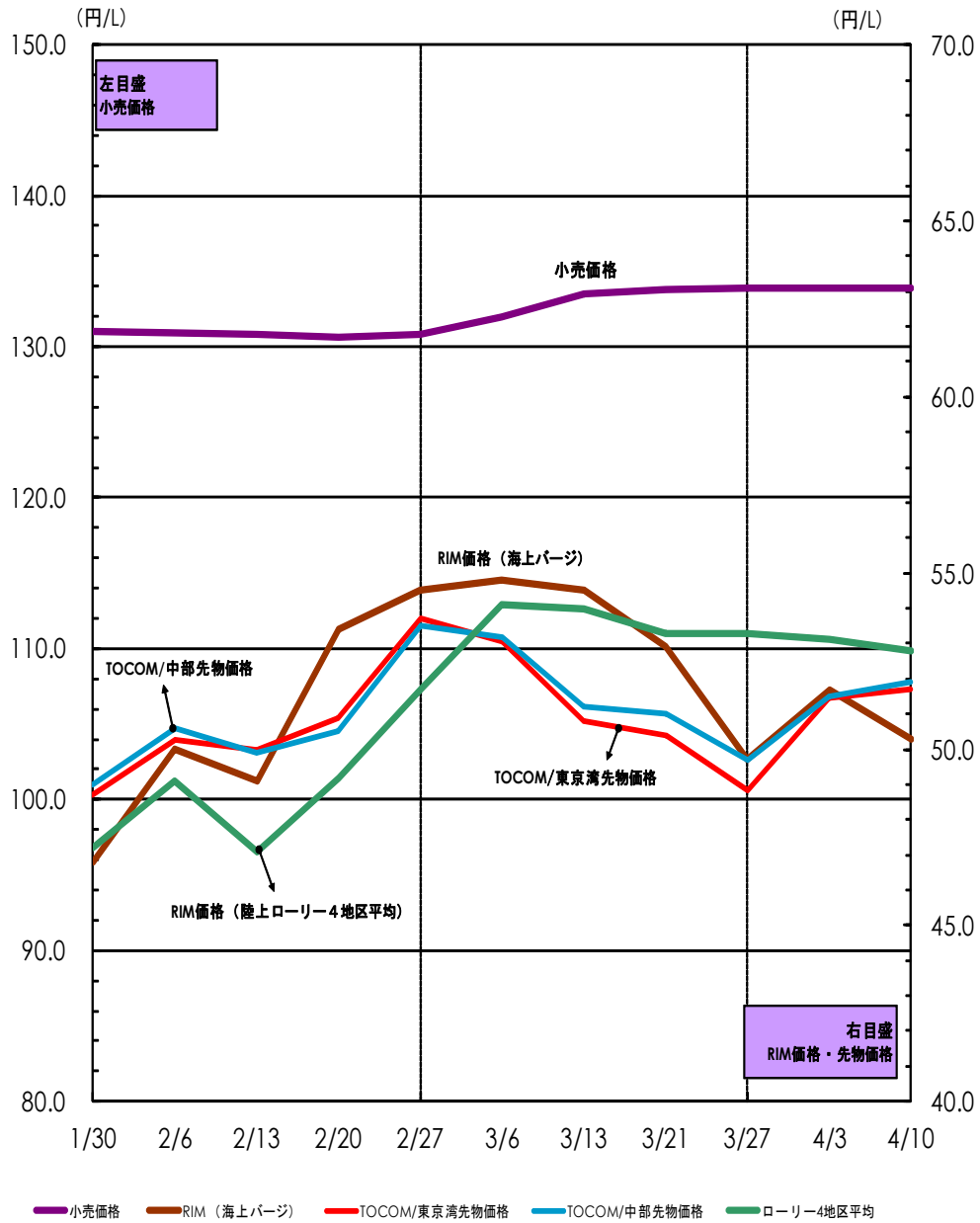
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/1/30 ~ 2017/4/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第3号)の公表は、4/21(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。